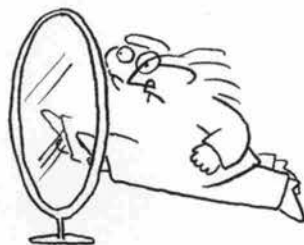


(とてもつめたい空気の部屋で)



こいつの欠点は ふんづけた犬のフンが
何度も目の前に 出てくることじゃな

— Tetsu —

嬉しい50年 皆さん有難う!!

妹尾

美智子

〈神戸市婦人団体協議会 専務理事〉



今年私たちの婦人団体は、創立50周年を迎えました。「嬉しい50年、皆さん有難う!!」というタイトルを掲げて、6月7日には市立中央体育館前に「希望と夢」というアンティーク調の日時計に、新谷琇紀先生による少年・少女の像をそえ、その周りをバラ園で囲んだ公園を神戸市に寄贈しました。そして6月8日には、神戸文化ホールで式典というより、石井好子さん、井上和世さんのリサイタルのようなお祝いの会を。6月17日には、団体の中でいちばんご苦労をかけている中堅リーダーの皆さんを、文化ホールでの演劇鑑賞にご招待して、3部からなるお祝いの催しを終えました。

私たちの婦人団体は、昭和25年に公選による教育委員の小泉ハツセさんを初代の会長として発足しました。厳しすぎると言われる選挙規則によって毎年の総会で選出される会長の中で、この50年の大半をリードされた、土井芳子さん（現名誉会長）の手腕を私たちは忘れられません。先日亡くなられた皇太后にそっくりと言われる、やさしい笑顔と思いきやりの深いお人柄に「神戸のお母さん」と皆さんがおっしゃって下さいました。土井芳子さんの信念は、ただ一つ「女の幸せを求めて」ということでした。私たちは「女が本当

に幸せになる世の中になるために」弛まぬ活動続けました。活動の基盤をあくまで神戸の地域コミュニティにおき、女性の質的な地位の向上を目標にしています。33年も続いている「婦人市政懇談会」では、まちづくりは市民と行政の両輪活動で育つことの大切さを学びました。8億円を集めた「市債購入運動」、消費者・企業・行政の三者による全国規模の「消費者問題神戸会議」も今年で24年目を迎えます。あの震災の時には、地道な救援活動を地域で進めていきました。婦人団体のような地域組織は、平素は必要を感じなくても、いざという時には、地域の大きな力になるものだと思います。

50年の道のりの中では、数回の大きな危機もありましたが、みんなの力で乗りこえました。いつ潰されるか、潰れるか分からないという危機感が絶えずありました。これが50年を支える目に見えない力だったのかもしれない。私たちの活動は「学ぶ」ことから始まります。豊かに楽しみ、果敢に行動する団体です。新しい時代に向けて、地域に15のNPO・輝グルーを立ち上げました。50年という大樹、これにNPOという若木を接木して、新しい時代の神戸のまちづくりの地域組織に育てたいと思います。



現代生活の中で、私達の足には大きな負担がかかっています。これからの足の悩みを予防されたい方にも、既に、足の痛みに悩まれている方にも、足に合った正しい靴をはかれることをお勧めします。株式会社アリスは、最新の整形外科水準に基づいて作られたドイツ製健康靴を中心に、多くのブランドを取りそろえ、皆さまの快適で健康な生活をサポートすることに全力を注いでいます。月に一度、無料のクリニックデイも設けておりますので、お問い合わせください。経験豊かなスタッフと専門技術を持つ整形外科靴マイスターと共に、皆さまのご来店をお待ち致しております。



代表取締役社長 アリス・クリスチャンス

地球を歩く Step Globally 自然に歩く Step Naturally 快適に歩く Step Comfortably

Japan's Premier Health-Shoe Specialist
高級健康靴と関連資材輸入・機材輸入

 アリス

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通り5-6-6
TEL:078-382-2101 FAX:078-382-2150
営業時間:10:30a.m.~6:30p.m.年中無休

神戸を福祉の街に

<301>

施設の子どもたちの暮らしを よりよくするための規準ができました

昨年、千葉県や神奈川県の子童養護施設に入所している子どもたちに対して、施設内で繰り返し体罰や虐待が行われていたという事実が明るくなった。行政機関が定期的に監査をしていたが虐待の事実がつかめずにいたところ、入所している子どもたち自身が外へ訴えて世間の知るところとなった。

児童養護施設というのは、親の行方不明、離婚、入院、就労などさまざまな事情で親と一緒に暮らせない二才から十八才の年齢の子どもたちが暮らしている施設であり、全国の五百数十か所の施設に約二万六千人の子どもたちが入所している。家族と離れた子どもたちが他に生活する場所がなくて、最後にたどりついた所がこれらの施設といってもいい。その生活の拠り所とする場所で常時体罰や虐待が行われ、安全で安心して暮らせないとすると、こんな悲しく辛いことはない。

老人ホームやハンディキャップをもつ人たちの施設は地域に開かれた経営やグループホーム化など新しい試みを

行っているが、児童養護施設の中には社会のニーズや変化について行けず旧態依然とした施設も存在する。それは入所している子どもたちが大人と違って声を上げないからかもしれない。しかし、そんな子どもたちの存在や施設の存在に無関心であった私たち市民には、虐待を行っていた施設を批判する資格はあるのだろうか。

児童養護施設が存在が今問われている時、兵庫県内の十四の児童養護施設でつくる「兵庫県児童養護連絡協議会」は自ら子どもたちの権利を守り、施設でのよりよい暮らしをめざすための共通の規準づくりをはじめ、四月に「今、子どもたち」という子育て支援規準を作つて制定した。四月に協定書に基づいて十四の施設が協定を結び、六月にはそれぞれの施設が独自の子育て支援規準を作成して調印した。規準は「子育ての理念」に始まり「子どもたちの権利の保障」「子どもたちの成長・発達の支援」「子どもたちの自立支援」「家庭や地域の子育て支援」「子どもの



橋本 明

〈社団法人児童養護促進協会事務局長〉

http://www.hyogo-kids.jp/~ainote

福祉向上と推進」「情報の公開、苦情解決」に分かれてそれぞれ具体的に書かれている。

この規準が単なる憲章や絵に描いた餅に終わらないようにするために、識者、弁護士、医師、住民、行政関係者など十二人による第三者機関を設置し、規準がそれぞれの施設で守られているかどうかをチェックし、規準が守られている場合は調査や助言、指導をする。それでも改善がみられない場合には施設名を公表することになっている。

今後の課題としては、入所中の子どもたちやその保護者が、自分たち

が不利益をこうむったり、権利が侵害されていると感じた時に果たして声を出して苦情を訴えたりできる環境が整えられるかどうか、第三者機関がどのようにして規準が守られているかどうかをチェックできるのか、苦情にどこがどのように対応できるのか等、難しい問題はたくさんある。しかし、何事もまず一步を踏み出さないと前へは進まない。兵庫県のこの第一歩が、日本の児童養護施設の改革の第一歩にたつてほしいものである。



子育て支援規準等についてのホームページができました。一度ご覧ください。http://www.hyogo-kids.jp/html/top.html

井植文化賞

主催・財団法人井植記念会

戦後、日本の復興と繁栄に大きな足跡を残した三洋電機株式会社の創設者、故井植歳男氏の遺志により、昭和44年11月に「財団法人井植記念会」が設立されました。同会は、兵庫県在住、またはゆかりのある個人、あるいは団体で、それぞれの分野で目覚ましい活躍をされたり、多大な貢献をされた方(団体)の功績を讃え、

地域社会のよりいっそうの発展に寄与したいと、昭和52年に「井植文化賞」を制定しました。第24回の今年の6部門の受賞者は、選考の結果、次のとおりになりました。受賞者にはライオンのプロセス像と、副賞として賞金(個人30万円、団体50万円)が贈られます。



■文化芸術部門
時里二郎
(詩人)

●選考委員
伊勢田史郎
安水稔和
鈴木漠



■社会福祉部門
メインストリーム協会
(代表 藤田俊二)

●選考委員
野上文夫
橋本明
中元孝迪



■報道出版部門
神戸新聞社説
企画報道「大震災問わずにいられない」
(神戸新聞社編集局長・前川昌夫)

●選考委員
山口一史
原口洋一
上羽慶市



■科学技術部門
春日雅人
(神戸大学医学部教授)

●選考委員
石山靖男
森脇俊道
相蘭泰生
山村博平



■地域活動部門
武田清市
(淡路文化団体連絡協議会長)
横谷温子
(兵庫県連合婦人会副会長)

●選考委員
小笠原暁
小室豊允
林五和夫



■国際交流部門
高井恒昌
(神戸千種会代表取締役)

●選考委員
新野幸次郎
宇都宮浩
住野和子

第24回 井植文化賞 文化芸術部門

光ることばで構築する詩的宇宙

時里 二郎



処女作を除く4詩集

●選考委員

伊勢田 史郎

安水 稔和

鈴木 漢

詩人

「ご本業は県立高校の国語教師だが、多分かつては、純真寡黙な蒐集好きの理科少年でもあっただろうというのが時里二郎さんの印象だ。詩集『ジパンク』その他の、散文詩形で書かれる作品の稠密な文体もさることながら、たとえばその語彙の豊かさ。百葉箱、標本、壘といった硬質に光る言葉や天文用語などが随所に顔を見せる。ご本人に確かめたわけではないが昆虫採集は今も継続する趣味と聞いた。作品の、ストーリーテリングの卓抜さは、『播磨風土記』『明月記』『今昔物語』あるいは『史記』『聊斎志異』など東西の古典を広く渉猟する中から、おのずと身についたものだろう。これもまた言葉の蒐集好きの延長線上にあるといってもよいかも知れない。どの同人誌にもグループにも属さずパフォーマンズを行うわけでもなかったが、これまで文芸賞受賞には恵まれ、ブルーメール賞、富田碎花賞、晩翠賞と連続しての受賞（もしかすると賞の蒐集？）は、お見事というほかない。」

《鈴木漢》

■選考経過

文化芸術部門は、美術・音楽・文学の三分野を毎年交替制で選考しており、今年は文学部門から、六年ぶりに詩人を対象とした選考が行われた。

選考にあたっていちばん重要視されたのは、全国に向けて文化発信できるレベルの詩人を選ぶことだった。候補として挙げられたのは、以倉紘平、季村敏夫、福井久子、時里二郎の四名。いずれ劣らぬ活躍ぶりに選考は難航したが、最終的には福井久子と時里二郎が残った。

福井久子は長年にわたる詩作活動とともに、昨年英文学の分野でも『E・パウンドとT・S・エリオット——技法と神秘主義』を発表するなど独自のライフワークをもっている点が評価された。しかしながら、時里二郎の『ジパンク』その他の作品における稠密な文体と語彙の豊かさ、ストーリーテリングの卓抜さは、兵庫県を代表する詩人として今後の現代詩の分野に実りをもたらすものと、授賞を決定した。

●受賞者メモリアル

- | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-------------|-----------|---------------|------------|----------|--------------|-----------|-----------|--------------|-------------------|------------|
| 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 青木はるみ（詩人） | 神戸灘ライオンズクラブ | 山沢栄子（写真家） | 延原武春（指揮者） | 安水稔和（詩人） | 昇 外務（画家） | 田原富子（ピアノリスト） | 多田智満子（詩人） | 荒木高子（陶芸家） | 横井和子（ピアノリスト） | 山口龍夫（現代美術） | 河川龍夫（現代美術） |
| 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | |
| 鈴木雅明（指揮者） | 植松重一（彫刻家） | 佐伯敏光（作家） | 甲南高等学校貴志康一記念室 | 嶋本昭三（前衛美術） | 鈴木 漢（詩人） | 大前 哲（作曲家） | 光安義光（建築家） | 宇江敏勝（作家） | 菅沼 潤（演出家） | 今竹七郎（グラフィックデザイナー） | |

第24回 井植文化賞

科学技術部門

糖尿病治療に多大な貢献

春日 雅人

八十年前に発見された小さなタンパク質であるインスリンは、それまで糖尿病性昏睡で死亡していた多くの患者の命を劇的に救った。以後、このインスリンがいかにして血中の糖を低下させるかという命題は世界中の医学研究者の最大



の目標のひとつとなってきた。

春日博士はインスリンの細胞内情報伝達の「入口」であるインスリン受容体自身にタンパク質チロシン残基燐酸化酵素活性が内在し、それがインスリン依存性に活性化されることを米

国留学中に世界で初めて明らかにした。さらに帰国後、インスリン受容体以後の細胞内情報伝達の研究を独自に発展させ、次々と重要な発見をされ、常に世界の先頭に立つて複雑なインスリンの細胞内情報伝達機構を解明してきた。

春日博士の研究は、他の多数の重要な増殖因子やホルモンの細胞内情報伝達機構の解明に大きなインパクトを与えたのみならず、糖尿病の発症機構の解明や新しい糖尿病治療薬の開発に多大な貢献をしている。

〈山村博平〉

●選考委員

石山 靖男

〈神戸新聞社常務取締役〉

森脇 俊道

〈神戸大学工学部長〉

相蘭 泰生

〈神戸大学農学部長〉

山村 博平

〈神戸大学医学部長〉

■選考経過

選考は、応用科学分野からということで進められた。

今回候補にあがったのは、工学分野からは創発的機能形成のシステム理論など、計測工学に業績のある神戸大学工学部教授の北村新三。農学分野からは生物炭素資源のリサイクル化と、土壌による炭素の長期固定化技術によって、地球レベルの環境保全の研究の成果を上げている神戸大学農学部教授大塚雄。医学分野からは生活習慣病のひとつ、糖尿病の薬のインスリンに関する研究を続けている神戸大学医学部教授の春日雅人の三人。

世界的に評価の高い春日雅人の功績を、地元神戸でも表彰しようとの意見と、評価の眼の届きにくい分野で地道な努力を続けている大塚雄の業績こそ評価すべきと意見が分かれたが、最終的には春日雅人に今回の授賞が決定した。

●受賞者メモリアル

- | | | | |
|----|-------------------|----|------------------|
| 1 | 櫻井春輔 (岩盤力学) | 14 | 安田武司 (熱帯有用植物学) |
| 2 | 杉山武敏 (遺伝子学) | 15 | 廣畑和志 (整形外科学) |
| 3 | 土田広信 (農芸化学) | 16 | 神島安啓 (応用化学) |
| 4 | 嶋田勝次 (都市計画・建築学) | 17 | 加藤征太郎 (生殖生物学) |
| 5 | 沢村誠志 (障害者の社会復帰) | 18 | 天津睦雄 (耳鼻咽喉学) |
| 6 | 安藤四一 (音響の研究) | 19 | 山本恵一 (電子工学) |
| 7 | 辻 莊一 (家畜育種学) | 20 | 眞山滋志 (バイオテクノロジー) |
| 8 | 西塚泰美 (生理学) | 21 | 水野耕作 (整形外科学) |
| 9 | 中岡睦雄 (ワイエレクトロニクス) | 22 | 森脇俊道 (精密工学) |
| 10 | 清水 晃 (微生物生態学) | 23 | 上坪安道 (加速器物理学) |
| 11 | 岡田安弘 (脳機能生理学) | | |
| 12 | 賀谷伸幸 (計測工学) | | |

第24回 井植文化賞 社会福祉部門

障害者の生活自立をサポート

メインストリーム協会

●選考委員

野上文夫

平安女学院大学教授

橋本明

家庭児童促進協会事務局長

中元孝迪

神戸新聞社論説委員



障害者と高校生が交流して仲間を広げている「障害者甲子園」

メインストリーム協会は、障害者の、地域での自立生活を支援するため、障害者によって一九八九年に設立。この十年間、どんなに重い障害者も生き生きと誇りをもって社会の主流（ストリーム）を堂々と生きていける社会にしたいと活動をしてきた。主な活動は、障害者権利擁護活動、アテンダントサービス（介助）、ピアカウンセリング（仲間サポート）、自立生活体験ルーム常設、各種啓発活動（バリアフリー）等である。特にアテンダントサービスは、現在百人の障害者の生活自立（入浴・外出・旅行など）を、二百人の介助者で日常的に支援。自立生活体験ルームは、重度障害者が短期入居（一週間）と長期入居（三か月）で生活自立し、県下や全国でリーダーとして活躍中。

毎年八月開催の「障害者甲子園」は全国から障害者を迎え、阪神間の高校生が合宿して交流や体験活動をし、全国に仲間やリーダーを増やしている。協会は障害者会員三百人で運営。

〈野上文夫〉

■選考経過

震災後、神戸には多くのボランティアグループができ、それらの今後の活動に期待が寄せられた。また地道な長い活動は受賞に際し注目すべき点であるとの意見が交わされた。

昨年も候補にあがった学が丘保育園の箕浦志保子は、アジアでの保育園建設や保母をまねいての研修などの活動が評価された。新たに候補に挙がったのは、おもちゃを通した子ども育成、心の治療などを二十年前から行っている、兵庫県おもちゃライブラリーの代表・小岩二三子、二十五周年をむかえた神戸聖隷福祉事業団の理事長・金附洋一郎、そして、一九六四年に、全国で二番めにできた手話通訳グループである「葦の会」の活動も注目された。

今回受賞のメインストリーム協会（代表・藤田俊二）は、今年十周年を迎える、障害者の自立支援団体。さまざまな活動のなかで、高校生など若者を巻き込んだ活動が注目された。

●受賞者メモリアル

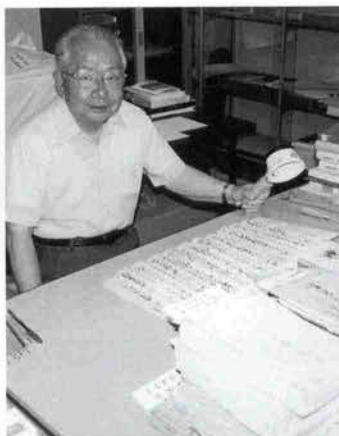
- | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------------|-----------|------------|--------------|-------|----------------|----------|-----------------|-------|------------|------|
| 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 誕生日よりどう運動 | エリア会 OHPこうべ | 山本博繁 | 実施委員会 | 神戸東部地域入浴サービス | 米田寛子 | 神戸大学看護ボランティア | 富永繁男 | 神戸市立友生養護学校 | 春本幸子 | 小畑延子 | 福来四郎 |
| 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | |
| ボランティアグループやすらぎ | 鈴木都 | 神戸新聞厚生事業団 | 神戸ライフ・ケア協会 | 楽団あぶあぶ | 横崎茂登子 | ボランテニアグループほほえみ | KOBE在宅ケア | 点訳ボランティアグループ連絡会 | 賀川記念館 | 兵庫ボランティア協会 | |

第24回 井植文化賞

地域活動部門

淡路古文書を整理 保存

武田 清市



膨大な数の古文書を発掘、保存整理

消費者運動、ボランティア活動等で地域に貢献
横谷 温子



「福祉梅林のつどい」参加者全員が輪になって

高校の歴史教師として長年歴史教育に従事、文化財・社会教育行政を経て高校長で退職。併行して早くから淡路地方史研究会を創設するなど、地域活動にも取り組む。退職後、淡路古文書学習会を発足させ、洲本市立淡路文化史料館を本拠に、島内に散在する古文書整理や学習を続け現在に至っている。また、洲本市文化団体連絡協議会会長をつとめ、地域研究「淡路学の会」を結成、研究成果をあげた。

一方、「近世淡路史考」「続近世淡路史考」「淡路の近世文書」の出版など淡路の歴史を研究、体系化した学術的功績も大きい。特に、従来淡路の古文書を組織的に収集、保存、目録作成、公開されることのなかった点に着目、その必要性を痛感し、唯一人、十六年間にわたっての古文書の発掘、保存整理に捧げた氏のライフワークは高く評価される。氏の整理した古文書は、書籍類、書冊類、地図・図面、一紙文書もあわせて六万一千九百九十二点に及ぶ膨大なものである。

（林五和夫）

一九七九年十一月二十四日に行われた「丹波婦人のつどい」で、兵庫県が提唱した「一千万本植樹大作戦」にこたえ、氷上連合婦人会が「梅の木を植えよう」という決議をした。

婦人会員の庭先に梅を植え、熟した実を梅干しにして、健康食品として売出すという意図もあった。

氷上連合婦人会は、それまで、県下でも有数のすばらしい消費者運動を展開しており、地元農協の抵抗を排し、すばらしいパワーをみせていた。転機は一九八一年の国際障害者年で、柏原町の知的障害者のボブラ学級の保護者から「義務教育を終えたあとの子供たちの働く場を」というねがいをうけ、彼らの授産の場にしよということになった。

全国の婦人会が、消費者運動の停滞から活力が落ちつつづけるなかで、新しい婦人会活動の核を福祉へとシフトしていったのである。こうした運動を一貫してリードしてこられたのが横谷温子さんで、彼女の存在がなければ、この運動は育たなかったであろう。

（小室豊弘）

●選考委員

小笠原 暁（学術博士）
小室 豊弘（姫路獨協大学学長）
林 五和夫（ふるさとひょうご創生監修）

■選考経過

兵庫県内各地、主に地方で地域に根ざした活動をしている団体、個人の名前が多く挙がった。

丹波の「福祉梅林」を設立した、元氷上郡連合婦人会会長で現在兵庫県連合婦人会副会長の横谷温子は、長年にわたる多くの活動が評価された。そのほか、氷上JCC、ヒガシマル醤油浅井博会長、岡沢薫朗東播磨文化団体連絡協議会会長の名前や、一度は姿を消した須磨一弦琴を復活させ、地域に根づかせた須磨琴保存会（会長・小池弘三、小池美代子）の名前があげられた。また淡路から淡路古文書学習会を発足させ、島内の古文書の整理や学習を続ける武田清市も注目された。

最後まで推薦の声が高かったのは横谷温子と武田清市。どちらも地域に根ざした活動が光り、双方を推す声は強く選考は難航したもの、今回は二人の受賞となった。

●受賞者メモリアル

- | | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|-------------|-------|-------------|---------|---------------|----------|----------|---------------|----------|
| 12 | 23 | 22 | 21 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 |
| 尼崎市演劇連絡協議会 | 宝塚NPOセンター | 中西 通 | 戸谷 公司 | 情報センター | 開発検討委員会 | 山崎硝子株式会社 | 山崎硝子株式会社 | 山崎硝子株式会社 | 山崎硝子株式会社 | 山崎硝子株式会社 |
| 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 神戸新聞文化センター | アンドレ・ブリュネ | 丸山地区住民自治協議会 | KIRCS | 明延ふるさとづくりの会 | 月刊神戸つ子 | 尼崎南部地区自治連合協議会 | 尼崎郷土史研究会 | 一宮町文化協会 | 明石市民のコミュニティ活動 | 城崎郡日高町 |

第24回 井植文化賞

報道出版部門

震災復興への具体的提言を続けた

神戸新聞社説と、

復興の現状・課題を克明に伝えた連載企画

『大震災問わずにいられない』

阪神・淡路大震災の復興に果たしたメディアの役割は大きい。とりわけ被災者と被災地の復興を目指す地元紙としての神戸新聞の役割と責任は、大きいものがあつたと思う。

大震災は、都市の在り方をめぐる多角的な問



社説のテーマを決める論説会議は、毎日行われる（神戸新聞論説委員室で）



地元紙の力を結集して集大成された『大震災問わずにいられない』（神戸新聞報道記録1995-99）（神戸新聞社編／神戸新聞総合出版センター）

題を露呈させた。その回答はまだ出ていないが、国の仕組みに内在する矛盾や制度上の不備を明らかにし、被災者と被災地への具体的な支援を訴え続けたのが、神戸新聞の社説だった。大震災以降、五年半で社説は六百本を超える。その

提言のなかから、制度の見直しや緊急の支援策が行われ、震災体験を生かしたまちづくりも進められた。

『大震災問わずにいられない』は、この間、編集局が書き続けた連載企画のなかから中心となるものをまとめて出版したものだ。タイトルの通り、次々と明るみに出てくる復興への課題、疑問、怒りが伝わってくる。地元紙の渾身の力が結集された震災報道の集大成だと思う。

〈山口一史〉

●選考委員

山口一史

今シオ関西代表取締役社長

原口洋一

NHK神戸放送局長

上羽慶市

神戸新聞社論説委員長

■選考経過

報道ではAM神戸制作の『阪神淡路大震災震災マニフェストをめぐる』、『遊々はりま名城めぐり』が候補に。

出版では、神戸山手大学の教授陣が執筆した環境文化の入門書『環境文化を学ぶ人のために』（世界思想社刊／多田道太郎編）や神戸新聞に連載された個人の営みから時代を問う『私たちの旅人、家族、時代』兵庫からたどる激動の軌跡（神戸新聞社編／神戸新聞総合出版センター）などが候補に。また、神戸華僑の歴史を体系的にまとめたものとしては初の『落地生根—神戸華僑と神阪中華会館の百年』（中華会館編／研文出版）が十数年にわたる編集の努力を高く評価された。しかし、最終的には地元メディアとして復興五年を過ぎた今も被災地の課題を社説やシンポジウムを通して内外に提言し続けた神戸新聞社説、さらにこの間編集局が書き続けた被災地の現在を一冊にまとめた『大震災問わずにいられない』が震災報道の集大成として受賞となった。

●受賞者メモリアル

- 1 「あなたの愛の手を」
- 2 神戸空襲を記録する会
- 3 兵庫県立学校厚生会／落合重信
- 4 サンテレビ「訪ねてみたい兵庫の手づくり」春木一夫
- 5 「兵庫探検」「兵庫史を歩く」
- 6 「兵庫県高齢者放送大学ラジオ講座」
- 7 「神戸の中堅150社」
- 8 神戸新聞淡路総局「淡路祭事記」
- 9 「神戸からこんにちは」
- 10 「神楽起郷」
- 11 「私たちの昭和史」
- 12 「バルモア病院日記」
- 13 スタジオTODAYホットに語ろう！
- 14 「収録港湾労働神戸港」
- 15 「ひょうご経済人100人」
- 16 「火輪の海」
- 17 「メダルは笑顔に輝いた」
- 18 神戸新聞「ミ・問題取材班」
- 19 「兵庫史を歩く」
- 20 「播磨学講座全四巻」
- 21 コウ・ヘイ・ドラマ
- 22 神戸新聞コラム「正平調」
- 23 「いのち結んで」三条杜夫
- 24 「イヌワシを追って」山本靖夫
- 25 AM神戸「風を抱け白鷺城」
- 26 NHK神戸放送局「復興99」

第24回 井植文化賞 国際交流部門

ひたすら留学生支援に尽くす

高井 恒昌

●選考委員

新野 幸次郎

神戸大学名誉教授

宇都宮 浩

兵庫県部長

住野 和子

神戸YMCAクロスカルチュラルセンター
プログラムディレクター



留学生たちとの交流会の様子

どこかで日本人や日本の悪口が言われるとき、いや、そうでもないよと言ってくれる人が一人でも多くなればよい。高井恒昌さんはそんなことを言いながら、実験が多くアルバイトの時間も少ない自然科学系の大学院留学生三十名に毎月十万円の奨学金を支給する奨学財団を創設された。平成三年以来ちようど十年、その間二百八十八名の留学生がその幸運に恵まれてきた。しかも単に奨学金を支給するだけではない。毎年数百万円の予算で、芸術文化鑑賞、企業見学、ホームステイ、スポーツ大会、富士登山などの研修旅行、役員との交流会、機関誌発行等々実に多様な方法で心の交流を図っておられる。

故井植蔵男さんは「ゼロから出発したのだから社会にお返ししなければ」と言って井植記念会をつくられたが、高井恒昌さんもそれとまったく同じお気持ちで、ひとり留学生支援だけでなく、いろいろな奉仕に打ち込んでおられるのである。

〈新野幸次郎〉

選考経過

アジア、太平洋の草の根の人たちによる平和と健康づくりへの協力を柱とし、草の根の青年を日本に招くなどの活動を行う財団法人PHD協会が、まず話題に。続いて、アメリカ、カナダへの青少年同士の国際ホームステイによる相互交流活動を行うユートレック国際交流センター神戸連絡所、国際都市神戸の美しいまちづくりを目的とし海外から芸術家を招待して地域住民と共にまちづくりを通じた交流を進めている国際交流ギャラリーB・ブレイスが候補にあげられた。ユートレック国際交流センター神戸連絡所については、海外に留学し、日本に帰国した後も次の留学生のために研修を行うなど、その実績を活かした活動に評価の声が高かった。さらに昨年、一昨年から候補にのぼっていた財団法人千趣留学生奨学財団が今年も引き続き推薦された。

最終的には、これまでの功績に対して財団法人千趣留学生奨学財団の理事長である高井恒昌（株式会社千趣会代表取締役）個人に、今回の授賞が決定した。

受賞者メモリアル

- 1 加藤 一郎
(神戸日韓協会会長、神戸大学名誉教授)
- 2 神戸日本チリ協会
(神戸YMCAクロスカルチュラルセンター)
- 3 留学生ホストファミリープログラム
CHIC
- 4 アルカディア協会
神戸ブータン友好協会
- 6 海星病院ボランティアグループ
桑原孝義(関西日印文化協会会長)
- 8 ミニFM局FMわいわい
関西バングラデシュ・プロジェクト
古澤孝子(神戸日豪協会副会長)
- 10 兵庫県外国人学校協議会
藤岡重司
(兵庫県海外同友会専務理事)
- 12
- 13

スポーツを通した地域のコミュニティづくりを

「スポーツクラブ21ひょうご」の推進について

お話を伺った方 山田 弘さん (兵庫県教育委員会事務局体育保健課地域スポーツ活動振興担当室長)



誰もがいつでも気軽にスポーツを楽しめる住民参加型地域スポーツクラブの県下全域での設置を、兵庫県では全国に先駆けて今年度からスタートしました。地域のコミュニティ拠点となる「スポーツクラブ21ひょうご」事業について、体育保健課室長の山田弘さんにお話を伺いました。

—「スポーツクラブ21ひょうご」事業が策定されるに至った社会的背景や経緯はどのようなものでしょうか。

近年、少子高齢化や情報化など社会の変化によって、コミュニティの崩壊、地域・家庭の教育力の低下、子どもたちの規範意識の欠如など様々な問題が指摘されています。

さらに、都市化や生活の利便化、自由時間の増大などにより、体を動かす機会が減少し、一昨行われた県民意識調査でも、約62パーセントの人たちが「運動不足」と感じているという結果がでています。さらに、スポーツに対する関心が高まっていますが、学校や企業スポーツが中心で、気軽にスポーツに親しむことのできる環境が身近に整備されていません。

こうした背景を踏まえ、スポーツを通じて、地域住民が連帯感や教育力を高めるとともに、子どもたちが社会の

基本的なルールを体得できるよう、さらに、県民の皆さんがいつでも、どこでも、気軽に身近でスポーツ活動が行える「地域スポーツクラブ」の設置を今年度からスタートさせました。

—具体的な内容をお聞かせください。

この事業は、県下全域の小学校区を基本単位として、地域スポーツクラブの設置・運営を支援していくこととするものです。

設立・運営は、県民の皆さんの自主・自発的な取り組みで進められます。運営委員会を設置し、少子化に伴い増加している学校の遊休施設などを活用して展開していきます。

その運営財源は、参加者からの会費等を中心としますが、立ち上げから軌道に乗るまでの5年間は、法人県民税超過課税を財源として県が、クラブハウス整備費やクラブ運営費を一定額補助します。

また、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の地域住民の方々が安全にスポーツを楽しめるよう、スポーツ指導員や青少年育成団体などと連携・協力しながら行っていきたいと思っています。

今までスポーツというと、どちらかと言えば、勝敗に重点を置いた「競技スポーツ」が中心でした。しかしこの事業では、地域住民誰もが気軽に参加

し、楽しめる「生涯スポーツ」の振興をめざしています。

ソフトバレーボールやグラウンドゴルフなどのニュースポーツにも是非チャレンジして欲しいと思います。

—これからの事業展開をお聞かせください。

今年度は、各市町に1小学校区のモデルスポーツクラブの設置を行い、平成17年までには県内全小学校区に設置したいと考えています。

「スポーツクラブ21ひょうご」は地域住民の皆さんが主体となって取り組んでいくスポーツクラブです。

スポーツを通じてのふれあいにより、子どもたちは、社会の基本的なルールを自然と学び、さらに様々な人間関係を体験することで、豊かなこころや「生きる力」が培われていくことでしよう。

もちろん、このスポーツクラブが、地域の方々の身近で気軽に参加できる活動の拠点として多に活用され、日頃の運動不足を解消できる場として、また、地域コミュニティを育んでいくための交流スペースとして発展していけばと願っています。

趣旨に賛同いただき、ぜひ多くの方々に参加していただければと思います。

永田良介商店四代目・会長

永田良一郎さんを悼む

長澤 昭

（株）高知県商品計画機構社長 元大丸神戸店店長

去る六月十二日、永田良介商店会長の永田良一郎さんが亡くなられた（享年七十六歳）。神戸家具の老舗の四代目として、誰よりも神戸の街を愛し自身もお洒落でハイカラな神戸っ子であった永田さん。元大丸神戸店店長で、神戸一中時代の後輩として公私ともに親しくされていた長澤昭さんに追悼の一文をお願いした。

永田さんは生粋の神戸っ子でした。私も神戸っ子を自称していますが、私はただただ神戸の周辺をうろろして神戸が好きで憶えていただけの神戸っ子です。そこへくると永田さんは真正正銘の神戸生まれの神戸育ち。住まいはずっと神戸で、神戸幼稚園、神戸小学校、中学は神戸一中、大学は神戸大学、仕事は四代目神戸家具と、まさに由緒正しき神戸っ子であります。そして今はご子息の耕

一さんが五代目を引き継がれ、心強いことです。

しかし永田さんが生粋の神戸っ子たる由縁は、ただ単に生まれ育ちが神戸であったということだけではありません。永田さんが、誰よりも神戸の街を愛し、神戸の文化を愛し、仕事の上でも生き方の上でも神戸にどっぷりつかって込んで、神戸を誇りにしておられたことにあると思っています。



永田さんは大丸前商店街にその本店があつた関係で、神戸の大丸にとっては長

年のお得意先であると同時に口やかましい親身のご意見番でした。昭和六十一年に私が大丸の店長に赴任したとき、いきなり「昔の大丸に比べて今の丸は趣味も品性も悪くなった。貧すりや鈍するじやいかんよ」と直言されました。そんな永田さんでしたが、昭和六十二年の大丸の第一次全館リフレッシュについては誰よりも評価して喜んで下さいました。その時のリフレッシュのキャッチコピーにあった「新しいのに懐かしい」という文句を見て、「俺はよく子供時代に大丸の売場で遊んだよ」と目を細めて昔を懐かしんでおられたのを、今でも感激をもつて思い出します。

その後、旧居留地のまちづくりについて、当時近隣の商店街にとってタブーであった百貨店の売場の増床を、むしろ先頭に立って支持していただいたのは永

田さんでした。我々はむしろ恐る恐る売場の増床をお願いに行くのに「遠慮せんとどんどんやれ」と奨励され、その上あちこちで「これこそ神戸や」と大丸に代わって宣伝していただきました。永田さんは旧居留地の街の再開発が、神戸のお洒落・ハイカラの原点の再生をもたらした、神戸ファッションの新しい発展の原動力に繋がることを最初から見通しておられました。私達はこの先見性のあつた有力な理解者がおられたことでどれだけ勇気づけられたかわかりません。

永田さんはご自身もお洒落でハイカラな神戸っ子の生き方を貫かれました。一緒に海外旅行に行ったときなど、昼はジーンズにセーターを腰に巻いた若いお洒落を楽しまれるかと思うと、夜の食事はダークスーツに身を固め、古くからの西欧のマナーを優雅に振る舞われる、その身だしなみの良さは、さすが神戸ならではといつも感心していました。また、スポーツマンで神戸一中から大学時代までラグビー部に所属、フットボールで勇敢に突っ込む姿に「悪太」（源氏の勇敢な御曹子源太を省略した）というあだ名をつけられていました。

永田さんはまさに古き良き神戸の化身のような人でした。今はもう帰らぬ人となられて改めてその存在の大きさを感じます。永田さんの死は私の心の中の神戸の一角が大きく崩れ落ちるような、そんなどうしようもない寂しさを感じさせます。



1991年ライオンズクラブ国際大会（プリズメン）にてガバナーに任命される（奥さまと）

「鳴尾の苺狩り」を書いた小説

『苺狩りの手毬歌』

青木重雄 著

出版記念会開かる

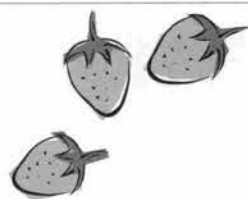
苺狩りといっても、今日とは大違い、大正時代末期の鳴尾村（現在は西宮市鳴尾町）の全村あげての苺狩りはまったく素晴らしく、初夏の風物詩として定着し、阪神両都から四、五月ごろには多くの人々が苺狩りに押しかけ

てきて、どここの畑も満員だった。見渡すかぎりの広々とした苺畑には、カンカン帽に浴衣がけの男性客やバラソル姿に和服の裾をはしょった女性客が苺摘みに打ち興じていた。

この小説は、そうした風景をバックにして、当時神戸から同地に転居して来た一少年（小学校三年・六年生）の印象記とラブ・ロマンスを中心に書き上げたものだが、少年の自然やモダンな品々に対する初々しい驚きの感情が実に素直に描かれていて、思わず往時の阪神間のハイカラ・モダンをかい間見る思いがする。

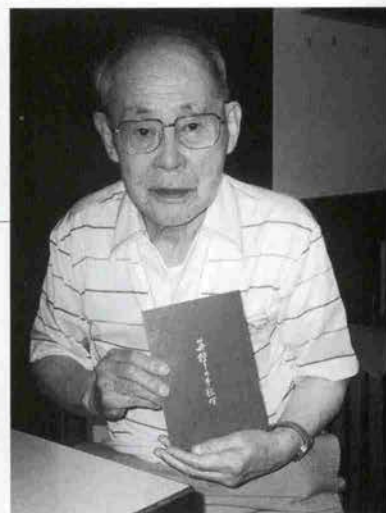
当時はまだ田舎の状態ではあったが、一方では大阪商人が進出して各所に赤や青瓦のいわゆる文化住宅を建て、さらに競馬場（ドッグ・レースや飛行機の宙返りなども行われた）やゴルフ場、野球場などの諸施設がすでに業者によって作られていた。鳴尾村は、いわば日本の文化ゾーンの一典型ともいえる存在になっていたのである。

この少年が自分の家の隣りに建築さ



れた富裕な大阪商人の家を訪れて初めて見るコダックの写真機はじめアコーディオン、サモワール、オルガン、流行歌やオペラ・ソングの各種レコード、その上ピリヤードの設備などへの驚きぶりが見事に描かれている。さらに別の日に訪れた少年が、同家で思いがけなく海水着一枚の年上美人と二人きりになる「大イベント」まで出現するのである。

こうした大正時代を描いた『苺狩りの手毬歌』（四百字詰原稿用紙百四十枚）の出版記念会は、去る六月四日（アロードの東天閣で午後十二時半から三時まで開かれたが、出席者は三十三名。まず司会役の小林幸和さん（元神戸新聞文化センター理事長）が、「実は著者の鳴尾小学校時代の一年下には森繁久彌さんがおり、そのはるか後年の昭和十二年には私の妻が卒業しておりました」とユーモア混じりのあいさつをした後、続いて青木さんが、当時小学校にはまだはだしの子らがいたことや毎日魚採りや苺狩りに熱中し



たことなどの様々な思い出話の後、これほど楽しかった苺狩り時代を書き残した作品が二作も作られていないので、あえて私はここに小説にまとめた次第です」と結んだ。四つの円席は、新聞記者と文学者席、陶芸家と美術関係者席、ひょうご愛陶会席、親類席と分けられており、和気あいあいの雰囲気開始した。

なお、出席者の顔ぶれは、松井高男（元神戸新聞総合出版センター社長、以下敬称略）をはじめ豊喜武治（同論説委員・元生活協同組合コープこうべ生活文化センター館長）、赤井成夫（ノンフィクション作家）、南和恵（神戸市立陶芸館館長）、中西咲子（二紀会常任理事・中西勝夫人）、西井逸男（元兵庫県陶芸館専務）、北村圭泉（丹波立杭焼陶工）、西村隆（ひょうご愛陶会会長）、小倉尋富（小倉千尋長男）などだったが、東京から二通の祝電（フランス文学者で『アンドレ・マルロオの日本』の著者林俊と小松清の令息小松越雄）が寄せられていた。

同本の申し込み先は
青木重雄宅 神戸市須磨区戎町1-4-21
☎078-735-2009
送料とも2,000円

東天閣で開かれた出版記念会

ミステリーグルメ

神戸篇

ONE DAY LILY

— 予告殺人は、その夜… —

ウドノ葉生子

恒

例の結婚記念パーティーは予告殺人などなかったように大盛会となっていて、時ははや11時近くを指していた。

当主の俊充も顔を赤く上気させながら降ってわいたこの事件に、やはりイタズラなんだという思いが表情に見え隠れし、先ほどの神経質な表情が一変している。

まだまだ続くだろうご馳走の山と名酒の酔いで声高におしゃべりするこの一族と相対して、不況の嵐に翻弄されている一般の人々を思うとなんと



贅沢な光景か。

ウーロン茶を手にして来客一人一人をチェックして廻っていると、背後に人の気配が。

かたわらに黒のエンポリオ・アルマーニのスーツでまとめあげたアーティスト風のやせ形の男性が笑顔の中に皮肉さを漂わせながら立っていた。ほっそりした容貌に分厚い赤い唇が際だって見え違和感がある。波留菜と同じように足が長く神経質に足を交互させている。

「僕をお捜しかと思って」

「福充さんですね」

「（頷きながら）ジュリアンさん、ズバリお聞きしますが、この家で何が起っているんですか？ 僕には何か匂うんです。（ちよつと考え込んでからまっすぐ僕の目を見る）そして、あなたは税理士ではない」

言い切る彼の直感。

「そう見えますか」

「ズバリでしょ」

「福充さん、あなたのクリエイティブな感性をおほめしたいところですが、僕は一流ではないが、それ相応の税理士です」

「いや、見えない。匂わない。いいんですよ、否定されても。ここで正体をバラスわけにはいかないでしょうから。ともかく、あなたは何かあって父に呼ばれた。これは真実だ」

福充の洞察力には恐れ入る。

「僕のことを知りたいんですよ。じゃあ、お教えしましょう。自己申告ってことかな。えーと、性格は暗くないです。好奇心旺盛だが、なんでも物事を



斜に見る癖がある。義兄と違って大勢の友達とはしくはない、少数派。ガールフレンドも同じくで今、恋人と呼べる人はいない。子供は欲しいが結婚はしたくない。金も肩書も要らない。ただ、モノをつくる欲だけ人百倍あるね。だからヨー・フクをつくる。子供3人の共通点は、なにかなあ…両親と別居してることもぐらいいかなあ。妹の波留菜は男なしでは生きられない。僕は女なしでも生きられる。義兄は…金なしでは生きられない。これで、終わり」

「そうなんです。みなさん、それぞれ個性がおありで」

「ありすぎさ。父はああ見えてもなかなかの強欲者でね。実にしたたか、僕には真似できない。まあ、謎と影が多くて実の父親とは信じられないけどね。義兄は父譲りで彼の方が実子みたいで、おかしいよね。父は義兄を重用しているが信じてはいないだろう。自分似なんだから。秘密タイプなんだ。僕は彼らが背中合わせのお似合いだと思ってる。カードの

表と裏。横田家の切り札の一枚つてことかな」

「福充さんの読みは面白い。人の心が読めるんだ」

「そう。僕の長所で欠点。読み過ぎる」

「こわいなあ」

「こわくないくせに。ジュリアンさんもなかなかの切れ者。お困りのことはないでしょうが、何かヘルプすることができたら言ってくださいよ」

「アハハハ…あなたは面白い」

「面白いのはこの家、お化け屋敷」

「えっ？」

「ひとの面をかぶった幽霊が動き回っていますよ」

「どういうことです」

「そういうこと」

「こりゃあ、難解だ」

「ジュリアンさんが考えてください」

誰が幽霊？ 彼の裏が読めない。考え込む僕を見て彼はニヤリと笑みを歪めて去っていった。

それから、15分ほど経った頃。

「ギャア」

僕の目は咄嗟にローレックスの11時30分を記憶した。

高い天井を貫くかのような誰かの悲痛な叫び声が合図となって横田家悲劇の幕は切っておとされた。

横田俊充は死んだ

予告どおりに。

「医者だ。医者！ 医者！」と叫んでいるのは義充であらう。

ホールの中央に倒れている俊充に急いで駆け寄って、その胸に手を当てる。心臓は完全に停止していた。細身の老いた俊充の身体が急に半分になったような気がした。目は天井の一点をまっすぐ見つめ、右の唇から糸を引くかのように真っ赤な鮮血があふれだし、それは蛇のように大理石の床を這っていく。

間違いなく毒物。

夫人は夫の死に衝撃を受けたのか気を失って倒れている。福光が慌てて駆け寄り抱きかかえて寝室へ運ぼうとしていた。

波留菜は、日頃の冷静も忘れて興奮状態で泣きじやくっている。

義充が「警察に通報しますか」と僕に聞いてくる。正体を見抜いてのことだろう。さすが、横田俊充の後継者。

「皆さん、騒がないで、今、警察に電話してまずから。現場検証があるんでテーブルの飲食物は一切触らないで下さい。今、立っておられる、あるいは座っておられる場所から一歩も動かないようにして下さい。そして、絶対帰らないように。帰られるとあらぬ疑いがかかりますよ」と脅しもいれる。

まずまず、増幅するよどめきの横田一族。驚き、怒りそして不安が交錯する。

携帯電話から警視庁捜査四課小林課長の直通に入

れる。

「コバさん、やられたよ！」

「通報は？」

「いま、済んだ」

「そうか。君に援軍が必要だろう。ともかく、そっちへ行くよ」

「待ってる」

邸外のジョージから携帯に報告が入る。

「旦那、大変なことになったねえ。こっちの方は猫の子一匹通らずだから、100%内部だね。おまわりが来るだろうから、ひとまず退散つてことで」ジョージにご苦労と言いつつ、自分の手薄が悔しい。

ドヤドヤと足音荒く警察刑事課ご一行さまの到着である。一応、毒物殺人のことを伝えてあるので鑑識による綿密な作業が開始された。

「誰、ここから通報したのは」

「私です」

「誰？ あんたは」

「ジュリアン伊藤と言います。職業はこちらのご夫妻から依頼を受けていた探偵です」

「フーン、探偵か」

この横柄な刑事に逆襲といくか。

「ところでそちらのお名前は」

「田代だよ」

「どちらの」

「うるせーな。素人がサ。いちいち首を突つ込まないでよ。後で事情聴取するから、それまで隅でおとなしくしてなさい」



所轄警察署の刑事だろうが、態度が頂けない。思うに探偵と聞いて胡散臭い野郎と思ったに違いない。丁度、このくだらないやりとりをしている時に違った雰囲気の一行が入ってきた。田代刑事も驚いたように振り向いて「あんた達、誰なの？」と聞いている。

「本庁の四課、課長の小林だ。君は」とムツとした感じで答えているのはコバさんだ。

「ハッ。ハッ！ 失礼いたしました。東京宿署の田代です」

本庁で名高き捜査の鬼の登場である。聞いた田代刑事は完全に固まってしまったようである。

「よっ、待たせたな。ジュリアン」

「いや、田代さんと軽くおしゃべりをしていたので」田代刑事の態度が急に青菜に塩になって「この探偵をご存知のですか」と震え声。

「私の先生さ。以前、難事件と言われた琵琶湖殺人事件を見事に解決してくれたわが署恩人の優秀な探偵弁護士さ」

「げっ、この人がそんなに偉いのです？」

「そうさ。探偵ジュリアンって有名な名前だぜ」

「知りませんでした」

「覚えておきなさい。田代君」

「ハイッ」

直立不動で田代刑事、僕に向き直って最敬礼して「申し訳ありませんでした」

「コバさん、困るよ。そんなに吹いちゃあ」

「いいじゃないの。本当だから」

追いやられた田代刑事であるが、さすが立ち直りが早い。隅の方で署の仲間と参考人リストに早速取りかかっている。

(つづく)



ウドノ葉生子

作家、TVイベントプロデューサーなど多様に活躍中。月刊神戸っ子に「松浦家ものがたり」連載。若者向け著書「音声多重面白構造」(三水社)で人気を集める。最近作「ああ、万事塞翁がふ・ん・な」(文園社)では神戸花隈の花柳界の歴史を綴る。ラジオ日本「ウドノヨーコのざっくバラエティ」のパーソナリティを板神・淡路大蔵とまで務める。

フルーツ・フラワーパーク に新しい施設が誕生!

「神戸おとぎの国」と「わんぱく広場」がオープン

都市と農村のふれあいの場として、平成5年、北区大沢町に開園したフルーツ・フラワーパーク。7月20日、新しくアミューズメントパーク（遊園地）とアスレチック体験ができる広場ができ、さらに楽しみが増えました。

遊園地の愛称は、600通を超える応募の中から「神戸おとぎの国」と決まりました。「神戸おとぎの国」には、フルーツ・フラワーパークにふさわしく、さまざまなフルーツの形をした観覧車やジェットコースター、メリーゴーランド、サイクルライダーなど、ゆかいな遊具があふれています。料金は、200～400円となっています。

一方、「わんぱく広場」では、健康遊具や40mのすべり台、丸太渡りなどアスレチック体験が無料でできます。さらに、果樹や花など自然とふれあえる遊歩道もあります。

なお、今月末まで、サマーフェスティバルとして夏のガーデニンググッズ掘り出し市やプールオープンなど、さまざまなイベントが催されます。詳しくは、同園に問い合わせてください。



●開園 午前9時～午後5時

(レストラン・会議室は午後9時、バーデハウスは午後10時)

年中無休

●入園料 500円 (小・中学生250円)

●駐車料 500円 ※午後5時以降は、入園・駐車料無料



神戸電鉄「岡場駅」から市バス69系統「フルーツパーク」下車すぐ、六甲北有料道路大沢インターから車で1分。土・日曜、祝日はJR「三ノ宮駅」「新三田駅」からバス運行あり
※格安クーポンあり。詳しくは問い合わせを

問い合わせ：神戸市立フルーツ・フラワーパーク ☎078-954-1000



ママといっしょに



あかちゃん：白川 小春ちゃん

(平成12年1月18日生まれ)

マ マ：陵子 さん

「アットホームな雰囲気の佐本産婦人科で初産を経験しました。5時間程度で生まれた我が子は、いつでもどこでも泣いたり飲んだり眠ったり、好き放題でスクスク成長中です」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15

TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)

市バス上沢4 停南スグ

●駐車場完備●

竹久夢二

「四つの恋のものがたり」

〈その十五〉お葉よ！泣くな「与太郎の死」

中右 瑛

お葉が身ごもり臨月を迎え、出産間近のころでも、夢二のみちのくの旅はつづいた。夢二の旅は、絵の素材を求め旅先での制作であった。生活費を稼ぐためで、旅先がアトリエだったのである。止宿先で必ず売絵を二、三枚描く。土地のファンや有力者たちに、その絵はすぐに売り切れてしまう。夢二はその後、秋田、酒田へと足をのばした。その間にも、たびたび東京へと舞い戻ることもあったが、みちのくの旅はその後郡山、福島へとつづくのだった。

「結婚なんてめんどろなことは大嫌いだ。旅が好きで気楽に遠出」。いつもの放浪癖がそうさせた。自ら「家を捨て、子を捨てた男」と称したほどである。

妊婦のお葉を気づかって、みちのくの旅先からつきつぎに出された夢二の手紙には、随所に子の与太郎の名が登場する。

十月二十三日

お葉どの

与太郎とお前とがぼんやりした月を見た晩、私はどうしていたのか考へ出せない。多分、月も何も見ないで田舎の人と話をしていたか、つかれて寝ていたかだと思う。お前の心が落ち着かないときは、与太郎も落ち着かないといふのは本当だろうね。どうか、しづかな、

にこやかな、やさしいおつ母さんでいるように。与太郎は安心して遊んでいるのだからね。

十月二十六日

お前はもう、二階であの床とこの中ですやすと与太郎と二人ねているだろうね。ちよつと逢いに行きたい、こんな夜は…。

お葉へ

草（夢二のこと）

十一月二十三日

たえて久しい手紙を拝見、やつぱり悪かったのか…。心細いだろうがもう二、三日の辛抱だ。

与太郎のことより、お前のからだが大切だ。どうか気持ちをしっかりして待っていておくれ…。（省略）

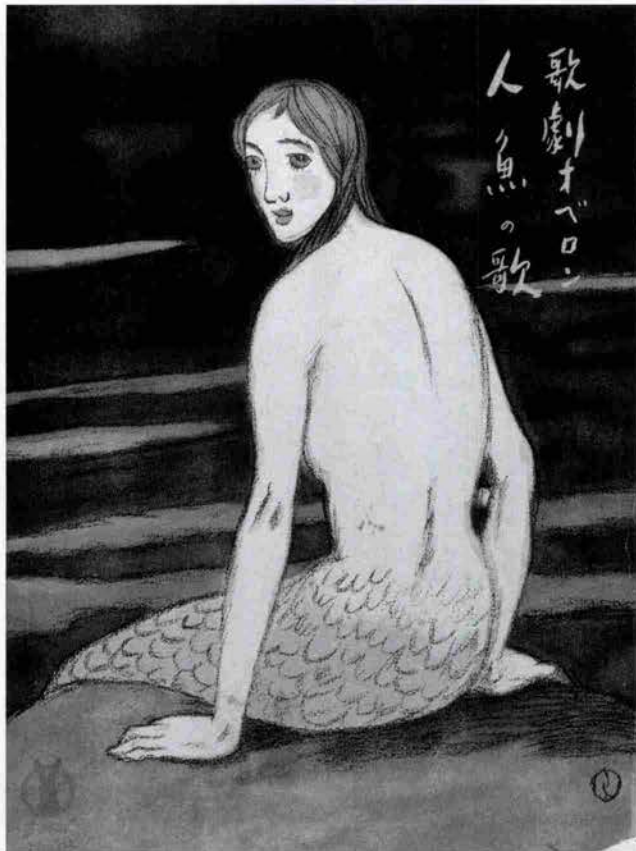
がしかし、これにつづく十一月二十四日の手紙には与太郎の悲しい事実が書かれていた。

追伸

からだはどんな風だ。死ぬものは仕方がない。お前のからだはこ



竹久夢二筆「ワイングラスの女」
夢二自句「飢えたればまことのことも偽も髪長き子のいへば哀しも」と添えられている



れから私のために大事にしておくれ。そればかりを念じている。

お葉よ泣くな!

パパ(夢二)が帰ったら、パパが涙で流れるほど泣くが好い。パパの膝で泣いておくれ。

そして笑っておくれ。

お前のパパは今が大事な大事なせとぎわだ。

どんな仕事でも自分の気のすむように、あとあと、世に残して恥ずかしいものを残しておきたい。

芸術家の妻は悲しいものだ。

昔もいまもかわりはない。

待っている、よい子だ。

お葉どの

十一月二十三日付の文面から推測すると、その直前に与太郎は死んだようだ。死産だった。

日記にも手紙にも、与太郎の真相を語らなかつた夢二だったが、実は私小説の中で与太郎に触れているところがある。

小説『出帆』に登場する主人公・三太郎(夢二がモデル)が白モスの産衣を縫う妊婦お花(お葉がモデル)に語りかける。

「男の子なら与太郎、女の子なら川へ捨ててしまおう」

というくだり。夢二は生まれてくる子の名を与太郎と決めていた。手紙のなかの「与太郎」は夢二がおなかの子に語りかけていたことになる。

「お花が一番気にしていることは、お花が三太郎の法律上の妻でないことだった。生まれてくる子は私生児という不愉快な印。そんな事情に係わらず子供は生まれて来た。しかし、幸い生まれた時、既に死んでいた。黒い髪はふさふさと色白の美しい子だったが、胎毒のために耳や目が傷んでいた。三太郎は自分のどの赤ん坊よりも、この子には深い愛着を覚えた。それほど惨しく生まれたためかも知れない」

身から出た錆とはいうものの、夢二の苦悩と不思議な心情がフィクションの中で生々しく表現されている。

「母親になりそこねたお花は、しかし元気に美しくなった」と小説はつづく。

セノオ楽譜
「歌劇オペロン 人魚の歌」夢二装画

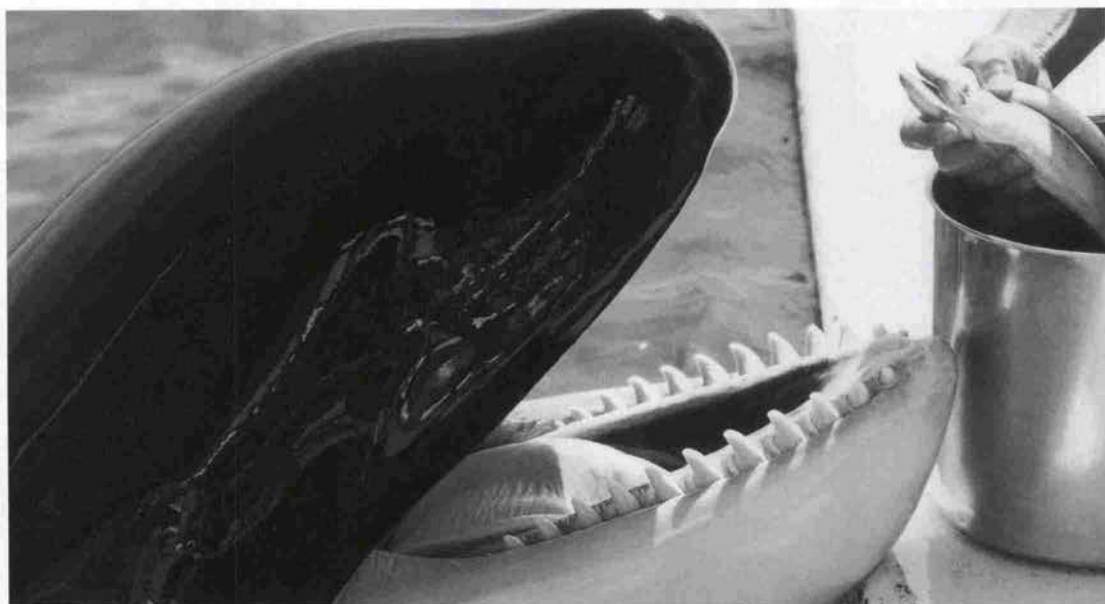
■中右 瑛(なかう・えい)
抽象画家。浮世絵エッセイスト
1934年生まれ、神戸市在住
〔受賞歴〕行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵蒐集研究の功績により浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。
現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書に、抽象画集「シエリト・リンド／ミクフルーの世界」(「浮世絵ミステリー」巻末)「写楽は18才だった!」(「忠臣蔵浮世絵」)「豆本・夢二黒猫結譚」がある

ZOOM IN ZOO

NO.399

イルカもオルカ（シャチ）も哺乳動物、
サメは魚なんだ

亀井一成の
ズーム インズー



① 巨大なオルカは歯クジラの仲間

ブッシュー、同じポイントで呼吸する赤ちゃんイルカ。

「この子はGOODや」

生後26日め、折しも須磨水族園「アマゾン館」落成式の朝、赤ちゃんイルカの泳ぎっぷりに思わず声が出てしまったのです。

カメラを意識する母親が、巨体で子を隠す愛情ぶりは、まさに哺乳動物であるイルカもアシカも同じなのです。

「育て、イルカの赤ちゃん」

日本で生まれたイルカの子は、21日以上の生存率が27パーセントと低い。須磨水族園でも、これまで2頭が生まれたが早い時期に死んだ。24時間体制で観察を続け、母子とも経過が順調なため公開する。

イルカライブ用のプールで泳いでいる母子はびったり寄り添って仲むつまじい。授乳やスキンシップの様子が見られる1日4回、えさを与える時間があり、この時に職員が簡単に説明する。プールでは、ほかにメスのイルカ2頭もいる。（神戸新聞）——など、毎日、朝日・各紙を見て、3度、須磨水族園に出かけたのです。

**イルカは哺乳動物、
魚じゃないんだ！**

イルカの体型が、魚類のサメの仲間とそっくりなので、

「おじちゃん、イルカとサメのちがいを教えてください」

「イルカには毛がはえているの？」

子どもからの質問がよくありました。

もちろん、そのつど、巨大なクジラやオルカ、そしてイルカの取材に、各地へ出かけました。

「ほんとだ！イルカの目はカメラオンだ！左右別方向に見ている！」

声帯のないイルカは、透明度の悪い水中でも、おでこの中にあるメロンという脂肪のかたまり部分から、超音波を出しています。そのはね返ってくる音を下あごから内耳に伝え、そこで何が聞こえるのかを見分けるのです。そこでトレーナーは、超音波を出す笛を吹いています。こんどイルカショーを見る



こんなに大きいオルカといっしょに泳ぐトレーナーはみんなのあこがれ ②

ときによく見てください。

イルカも巨大なオルカも 歯クジラの仲間

プシユー、頭のとつぺんには呼吸をする噴気孔があります。これがヒトでいう鼻で、孔はひとつ。よく見ると水中では閉じ、呼吸するときに開けています。

まさにカバの鼻と同じなのです。

ところで、体長が4メートル以下のものをイルカ、それ以上大きなものをクジラと呼んでいます。

さらに、口の中に歯がまったなく、

「鯨ヒゲ」と呼ばれるものが生えていて、小さなブランクトンや魚を海水からこし取って食べる、それをヒゲクジラと呼びます。30メートルもあるシロナガスクジラがそれです。

イルカやオルカは口の中に鋭い歯が生えており、それをハクジラ類というのです。

サメは軟骨魚類、 つまりサカナなのです

サメは他の魚と同じで、水中から酸素を得るため「エラ」を使います。つまり水を口の中に入れて、その水をエラを通して外に出しながら、海水から酸素を取り入れています。

ところでその「エラ」はふつう5つ

あるので、いちど数えてみよう。

浮き袋のないサメは、泳ぎをやめると沈んでしまいます。

「みなさん、よく見るんです」

サメには他の魚のように浮き袋をもたないので、水中にじつとしていないことができません。常に上向きに泳ぎ続けているのです。もしその泳ぎをやめると底に沈んでしまいます。

「あつ、ほんとや！ カメイさん、底に沈んでじつとしていないサメが何匹もいるよ」

少しの説明に、すぐ発見する学童たちでした。

サメの皮膚はザラザラです。

マグロやタイ、アジ、イワシなど魚

のうろこは硬くても平らです。

サメの皮膚はザラザラのトゲでおおわれているので、下手するとケガをしておしまします。このトゲのうろこのことを櫛鱗シヨウリンといいます。

イルカやオルカは哺乳動物、 ぶ厚い皮で包まれています

「カメイさん、ショーを休んでいると、オルカ（シャチ）の皮膚にアカがたまりますのよ」

つまり、元氣よく泳いでいるときにはアカはたまりません。光たくがあつて、健康診断に役立ちます。

信じられないボクに、それ見てごらん、手でギュッと皮膚のアカをこすりつつももらつてびつくり。なんと白い腹からは白いアカが、そして黒い背のアカは黒いアカが、手のひらにくつきりと色がついたではありませんか。

ところで、須磨水族園のイルカ母子と、他のメス計4頭の泳ぎぶりを見て、ボクは「やっぱりそうや！」と嬉しく確認したことがありました。ありがたい、ありがたい。

赤ちゃんイルカの無事の成長を心から祈つてやみません。

亀井一成先生が撮影した
イルカの親子の写真を
5名様にさしあげます
(亀井さんの直筆サイン入り！)



ご希望の方は、ハガキかFAXに住所・氏名・このページの感想、または亀井先生へのメッセージを書いて下記までお送り下さい。

〒650-0011 神戸市中央区下山手通3-1-18
ツインズトアビル4階
月刊神戸っ子「ZOO」係 FAX078-331-2795
(8月31日消印有効)